

京都市立京極幼稚園 教育目標の全体構想

幼稚園教育の基本

幼児期における教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、幼稚園教育は、学校教育法第22条に規定する目的を達成するため、幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする。

(幼稚園教育要領第1章総則)

学校教育において重視する視点

— 子どもの主体性と社会性の育成を目指して —
「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高める
(京都市教育委員会 学校指導の重点)

京極幼稚園教育目標

心豊かにたくましく生きる子どもの育成

目指す子ども像

- ・ 夢中で遊ぶ子ども
- ・ 仲よく遊ぶ子ども
- ・ 一生懸命、がんばる子ども

地域・幼稚園・幼児の実態

- ・ 京都市のほぼ中心部に位置し、世界遺産の下鴨神社や商店街が区内にあり、観光客の多い地域である。
- ・ 幼稚園は閑静な住宅街の中にあり、相国寺、京都御苑、鴨川など地域の資源に恵まれている。
- ・ 子どもは素直で人懐っこく、何事もやってみようとする意欲をもっている。
- ・ 少人数の学級で早くから安定感をもつが、友達関係が広がりにくい。

本園の経営方針

- ・ のびのびと行動し、夢中になって遊ぶ子どもの育成のため、子どもが心を動かす直接的体験ができる保育を実践する。
- ・ 安定感と信頼感を基盤にし、一人一人の子どもに温かくかわり、自己肯定感を育む。
- ・ 地域の小中学校、保育所と交流し、人的環境を豊かにし、子どもの育ちをつなぐ連携を進める。
- ・ 家庭との信頼関係を築き、連携を密にして、保護者とともに健やかな子どもの育成に努める。
- ・ 研修や保育実践に積極的に取り組み、教師としての専門性を高める。
- ・ 保護者や未就園児の保護者が安心して子育てができるように、教育相談、「ほっこり子育て広場」、預かり保育など子育て支援の取組を進める。
- ・ 幼児期の子どもの育ちに視点を当てた、具体的な姿を地域や保護者に発信する。
- ・ 個々の発達課題を把握し、専門機関と連携しその子に応じた指導を考え、総合育成支援教育の充実を図る。
- ・ 職員同士が連携をとり、安全管理に細心の注意を払う。

重点課題と課題達成に向けての具体的取組

- 主体性と社会性を育てる遊びや生活を目指して
 - ・ 子どもが安定感をもって、友達と夢中で遊びこむ保育の実践に努める。
 - ・ 様々な友達とのかかわりを広げたり深めたりして、人への信頼感や規範意識などを育てる。
 - ・ 保護者評価や学校関係者評価を実施し、教育活動の改善に努める。
- 特色ある園づくりを目指して
 - ・ 就学前教育の充実を図るために、京極・室町小学校、鶴山保育所の交流などで、保幼小の教職員が継続的にかかわり、子ども同士、及び教員同士が学びあえる場を設けたり、研修を実施したりする。
 - ・ 同一地域の就学前施設である鶴山保育所と、交流保育を通して子どもの育ちを確かめると共に、京都市「幼保連携型認定こども園教育・保育の内容に関する全体的な計画」編成要領の検証を行う。